

本田・藤島十六ヶ用水

九頭竜川左岸の芝原用水の外輪のさらに北側に広がる村々を潤しているのが、本田・藤島十六ヶ用水です。

昭和に鳴鹿堰堤に統合されるまでは、旧東藤島村に単独で取水門を設置して、中ノ郷を潤し、さらに十ヶ用水、六ヶ用水と分流して、16の村に配水されていました。

開削年代は不明ですが、芝原用水と同時期であると推定されています。



この地域の用水源は、十郷、芝原、御陵、河合春近といった各用水の最後の“漏れ水”であり、平成の世になっても水量が不足するなど、近年までたいへんな苦勞をし続けてきた地域でした。

藩政時代には、福井藩の直轄用水として厳しい管理課に置かれていました。水奉行所管の用水ですから、維持管理の厳しさは芝原用水と同様でした。

加えて常に水量は不足がちであったため、取水門や分土工にはそれぞれ万人を常設して、日々施設の保全に努め、少しでも異常があれば早急に対応するといった態勢で凌いできました。

毎年、4月の春耕期には、関係する農民総出で施設の修繕や水路の浚渫を実施し、万全を期していたとあります。明治になってから、十ヶ用水と六ヶ用水は合同して、本田・藤島十六ヶ用水となりました。